

JA湖東 小麦栽培こよみ

2017年9月作成

監修 東近江農業農村振興事務所農産普及課

目標収量350kg/10aの構成要素 m²当穂数350本×1穂粒数25粒×千粒重40g 目標タンパク質含量 9.7%以上

☆高品質小麦の安定多収6つのポイント☆ (品質向上と多収により、交付金収入を上げる！)

1. 排水対策…いかに湿害を回避できるかが一番のポイント

- ①水稲作付け時からの排水対策
 - ア)水稲作付け時に溝切りと中干しをしっかり行いましょう
- ②排水溝による地表排水
 - ア)水稲収穫後、早めに作業を開始しましょう
 - イ)排水溝の深さは15cm以上(20~30cmが望ましい)
 - ウ)うね幅はほ場状態に合わせて設置しましょう
 - エ)水口から水尻へ流れやすい構造にし、必ず水尻につなぎます
 - オ)センター培土板による溝設置では、両脇の小山を平らにしましょう

2. 土づくり・基肥の確実な施用…初期生育の促進

- ①麦は酸性に対して弱い作物です
 - ア)土壌pH目標値は6.5
 - イ)苦土石灰を播種の1週間程前に10a当たり100kg施用しましょう
- ②麦は畑作物です
 - ア)基肥の確実な施用で初期生育を促進して、必要な穂数を確保しましょう
 - イ)追肥は茎数の多少で施用時期と施用量を調整しましょう

3. 適期・適量播種で適正発芽数の確保

- ①早播き・遅播きは避けましょう
 - ア)11月1日~10日が播種適期です
 - イ)早播きは初期生育が軟弱徒長となりやすく、黒節病や縞萎縮病の発生を助長
 - ウ)遅播きは低温による分げつ抑制や凍害による穂数不足になりやすい
- ②確実に適量を播きましょう
 - ア)全面全層播きは10a当たり10kg、播種が11月10日を過ぎれば12kgに
 - イ)機械(条播機)播きは10a当たり8kg、播種が11月10日を過ぎれば10kgに
 - ウ)播種深さは3cm前後
- ③種子更新をしましょう
 - ア)自家採種を繰り返すと、熟期や品質にバラツキがでてきます

4. 雑草・病害虫防除で減収防止

- ①雑草防除
 - ア)耕起前に発生した雑草はタッチダウンQ等を散布して防除しましょう
 - イ)播種直後~生育期にかけて適用範囲の除草剤で防除しましょう
- ②赤かび病防除
 - ア)開花期を中心に適期に防除しましょう
 - イ)赤かび病は毒性を有するので、細心の注意を払いましょう

5. 穂肥と実肥の適期施用…高タンパクと稔実の向上

- ①穂肥は3月上旬に施用しましょう
- ②実肥は出穂10日後を目安に施用しましょう
 - ア)実肥はタンパク質含有量向上と品質向上に不可欠です

6. 適期収穫…品質の高い麦の収穫

- ①出穂後50日前後を目安に穀粒水分が25%以下で収穫しましょう



月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
農 林 6 1 号	ほ場準備			播種期	発芽期			幼苗期			分けつ期						幼穂形成期			伸長最盛期/出穂期/開花期						登熟期	成熟期
	種 子 の 準 備	ほ 場 の 準 備	土 づ くり 資 材 (基 肥 施 用)	播 種 (基 肥 施 用)	除草剤散布時期			追 肥 施 用	排 水 溝 の 検	再 点 検							穂 肥 施 用							赤 か び 防 除	実 肥 施 用	収 穫	

I. 種子消毒

なまぐさ黒穂病、裸黒穂病、斑葉病、条斑病の予防
麦種を軽く湿らせて麦種子1kgにベンレートTコート5gの割合でまぶす

II. ほ場の準備

- ①土づくり資材の散布
苦土石灰を播種の1週間程前に10a当たり100kg施用
- ②ほ場の状態に合った排水溝の設置
普通のほ場…うね幅3~4m
湿けるほ場…うね幅2m前後

III. 施肥設計

(10a当たり)

	基 肥	追 肥	穂 肥	実 肥
一般 施肥	国産高度化成444 40kg 全面全層施用	国産高度化成444 20kg 12月下旬施用	NK化成C-20 15~20kg 3月上旬施用	硫安(つぶっこ) 10~15kg 4月末~5月始め

(10a当たり)

	基肥一発(基肥一回施用で追肥から穂肥までを省力化)		実 肥
基肥 一発	麦パンチ		硫安(つぶっこ) 10~15kg 4月末~5月始め
	50kg 全面全層施用	40~45kg 機械施用(種子同時播種)	

IV. 除草剤

下記の中から、ほ場特性に合わせて選択

(10a当たり)

薬剤名	使用時期	使用量	備考
ハーモニー細粒剤F	播種直後~小麦3葉期 (但し雑草発生始期まで)	5kg	ハーモニー75DF水和剤との体系処理は不可
ガレスG	播種直後~小麦2葉期 (但し雑草発生始期まで)	5kg	カラスノエンドウに有効
リベレーターG	播種直後~小麦2葉期 (但しイネ科雑草1葉期まで)	5kg	カズノコグサに有効
ハーモニー75DF水和剤	播種直後~節間伸長前 (但しスズメノテッポウ5葉期まで)	10000倍液を100%を100%	ガレスGやリベレーターGとの体系処理も可

☆どの除草剤も砕土、整地、覆土をていねいに行い、所定量を均一に散布すること



カラスノエンドウ



スズメノテッポウ



スズメノカタビラ



カズノコグサ

V. 病害虫防除

(10a当たり)

防除回次	実施時期	薬剤名	散布量	対象病害虫
防除①	開花期	ワークアップ粉剤DL	3kg	赤かび病、赤さび病 うどんこ病
		またはワークアップフロアブル	2000倍液を60~150% 500倍液を25%	
防除②	防除①の実施1週間後	トップジンM粉剤DL	3kg	赤かび病
		またはトップジンMゾル	1000倍液を60~150%	

※この資料に記載された農薬は、平成29年9月1日時点での登録内容です。

※使用前にはラベルの登録内容を必ず確認してからご使用ください。